



## 文学研究科の教育目標と特色

現在の国際化と情報化の急速な進展は、全く異質な文化をもった個人・集団・組織が交流・接触する機会を飛躍的に増大させている。その結果、国の内外を問わず、また個人・集団・組織の別無く、社会の中でそれぞれの活動を遂行するために必要となる相互の理解や同意の形成が、これまで以上に困難なものとなっている。

このように急速に変化する社会にあつては、単に言語習得を中心とする異文化理解にとどまっていたは十分対応しきれないのが実情である。こうした状況に対して、以下のような諸点が対応策として考えられる。

まず、異文化理解をただ単に知識の集積にとどめず、対象とする文化を歴史的、社会的、経済的背景との有機的な関係などを考慮しつつ分析した上で、把握することが求められる。

また、国の内外を問わずあらゆる異文化交流において、コミュニケーションがその重要な要素として作用していることは言うまでもない。その基本的な特性を分析解明することによって初めて、異文化理解のみならず自らの文化の発信を推し進めることができるようになる。コミュニケーションを単に言語学習や交渉術の習得にとどめることなく根本的な特性にまで考察を深めることが、関連する分野で活躍する人材には重要となる。

さらに、このように異文化理解やコミュニケーションの特性の理解を重ねても、人間に対する根本的な関心や理解が無ければ、人的な交流・接触も人間不在の形式的なものとなる危険性がある。こうした問題意識を常に持つことが、あらゆる文化間の交流・接触をより豊かなものにする上で不可欠である。

以上のような視座は、社会のあらゆる活動を遂行するために必要な相互の理解や合意を形成する上で、不可欠なものとなっている。従って、そうした能力を持つ人材の育成が、教育界、企業、官公庁のいずれをとっても緊急の課題となっている。

こうした中にあつて、大学の学部における英語文化コミュニケーションの専門教育とともに、大学院教育の果たす役割は大きい。文学研究科は、近年の加速化する社会状況の変化を踏まえ、高度な専門性と同時に広範な学際的見識を有する人材の育成をめざすことを基本的な教育目標としている。

本研究科の特色は以下のようになっている。

### 1. 英語教育の担い手育成

わが国の中等教育の重要な柱を成す英語教育は、学習指導要領の漸次の改正などの努力にもかかわらず、教育現場においては未だにややもすれば狭隘な語学の習得に終始する傾向にある。変化の激しい現代社会においては、英語教育についても語学の習得という枠の中に閉じ込めるのでは、その変化に十分対応できない。異なった文化を理解するという言語習得の本来の目的を見据えた幅広い視野と、言語使用の根本にあるコミュニケーションという人間の営為の基本にまで至る深い理解とを併せ持った人材によって担われなければならない。さらには、英語教育の範囲を超えて、教育学、心理学といった教育者が本来共通に備えるべき見識を養うことも教員には必要となっている。教育界において多数の優秀な英語教員を輩出してきた本学では、この点に着目し、社会の要請に応えることができるような高度な専門的知識を身につけた教員を輩出するべく学際的に授業科目を配置している。

### 2. リカレント（職業人継続）教育の推進

この専門性と学際性を兼備した教育・研究体制は、将来社会の各界での活躍が期待される学部学生のみならず、すでに社会の様々な分野で活躍する社会人が、自ら関連する分野の専門性や学際的知見を獲得し、また向上させるための教育機関として有効に機能するよう工夫されている。具体的には、当研究科では、リカレント教育を積極的に推進していくために、昼間に加えて、平日の夜間、その他特定の期間において授業と研究指導を行い、社会人にとって職業との両立が容易な勉学条件、環境を整えている。

### 3. 海外の教育・研究機関との交流

本学は、従来より米国・英国・カナダ・中国・韓国・台湾の教育機関との提携・交流を積極的に進めてきており、学部教育における交換留学制度、交換教授制度の充実は大きな成果をあげている。当研究科においても、国際教育センターとの連携によって海外の教育・研究機関との交流を密に保ち、各分野における教育・研究体制を常に時代に即応したものに整えている。更に、教育課程においても、言語文化研究、英語教育・コミュニケーション研究の両分野に最新の国際的な研究動向を扱う授業科目を設け、海外からの研究者を定期的に短期招聘し、講義を展開している。

### 4. チュートリアル教育方式の採用

当研究科の教育課程においては、各学生に比較的自由的な科目履修を保障しており、各自の研究体制を院生自らが主体的に編成することができる仕組みになっている。こうした制度をより効果的なものにするために、教員による適切なアドバイスは不可欠なものとなることから、院生は入学と同時にチューターとなる教員を決め、適宜連絡を取りながら研究を進めることになる。また、チューターとなった教員は院生に対して教育研究上のみならず、学生生活上の助言も与え、学生の教育研究が全般的に円滑に行えるように支援している。

### 5. 教育課程

教育課程は、言語文化研究、英語教育・コミュニケーション研究、人間関係論研究の分野から成り、院生は「言語文化研究」か「英語教育・コミュニケーション研究」のいずれかの研究分野を主専攻として選択し、その専門性を深めるとともに、さらに「人間関係論研究」の分野を加えた他分野の学科目を幅広く選択履修することにより、学際的な視点も身につけるように設定されている。なお、各分野に配置されている科目は、全て半期の履修で単位が修得できるようになっている。

#### (1) 言語文化研究分野

言語テキストを中心とする様々な資料を手がかりに、その背後に広がる文化を理解する方法についての研究を行う。本研究分野では、英米の文化を主としつつ、近隣地域の文化およびキリスト教等広範な文化も併せて対象としていく。

言語文化研究分野には、選択必修科目として「イギリス言語文化論研究 A・B および同演習 A・B」、「イギリス文学論研究 A・B および同演習 A・B」、「アメリカ言語文化論研究 A・B および同演習 A・B」、「アメリカ文学論研究 A・B および同演習 A・B」を、選択科目として、「英米文学論特殊研究 A・B」、「言語文化教育論特殊研究 A・B」、本学の建学の理念であるキリスト教の文化等を取り扱う「キリスト教文化論特殊研究 A・B」、言語文化の比較研究を行う「言語文化比較論特殊研究 A・B」を配置している。さらに、「言語文化論特殊研究」を配置している。

#### (2) 英語教育・コミュニケーション研究分野

言語および非言語メッセージの発信と受信を手がかりに、人々の相互作用の諸側面について多角的な研究を行う。本研究分野では、日常の言語使用から教育現場、さらには国内外における様々な場面をフィールドに、言語学、コミュニケーション学、英語教育学の三つの領域にわたる広範なアプローチから探求する。

英語教育・コミュニケーション研究分野には、選択必須科目として「コミュニケーション原論研究および同演習」、「異文化コミュニケーション論研究および同演習」、「言語教育学研究および同演習」、「社会言語学研究および同演習」を、選択科目として「応用言語学特殊研究」、「英語史特殊研究」、「理論言語学」、「言語人類学」、「語用論」、「英語教育方法論」、「英語教育評価論」、さらに「コミュニケーション論特殊研究」を配置している。

#### (3) 人間関係論研究分野

言語文化研究および英語教育・コミュニケーション研究の2分野での研究を補うため、教育学、心理学といった人間関係を研究する分野の授業を提供し、両分野での高度な専門的研究をより豊かなものにすることを目指している。

教育関連科目として「教育思想論特殊研究 A・B」を、心理学関連科目として、「教育社会心理学研究 A・B」、「身体心理学特殊研究 A・B」、「心理学特殊研究 A・B」を配置している。

## 6. 履修指導および研究指導

院生は、言語文化研究分野か英語教育・コミュニケーション研究分野のいずれかの研究分野を主専攻として選択した上で、2年間で修士課程修了に必要な30単位を選択履修する。履修にあたっては、両研究分野とも「研究指導」および「論文指導」または「特定課題研究指導」（ともに2年次配当）6単位を必修とした上で、主専攻として選択した研究分野の中から、選択必修として前期に研究、後期に演習を2年間で8単位履修する。その他の単位については、選択した研究分野の演習を除いた科目群の中から2単位、選択しなかった研究分野の演習を除いた科目群から4単位、人間関係論研究分野から4単位を修得し、残りの単位については研究分野を問わず自由に選択することができる。

修士論文または特定課題研究作成にあたっては、1年次から主専攻として選択した研究分野で研究指導を担当している教員の中から指導教員を選定し、その指導教員の下で自らが関心を持つテーマへの準備態勢を随時整え、さらには2年次からは、形式・内容ともに質の高い論文または課題研究の執筆ができるように十分な指導がなされる。

# 言語文化コミュニケーション専攻授業科目の履修と研究指導について





# 2017年度 言語文化コミュニケーション専攻(修士課程)開講科目

(2015年度以降入学生)

履修コード	授 業 科 目 名	単位数開講年次		担 当 者	備 考		
		1・2年次	2年次				
言語文化研究	9201	イギリス言語文化論研究A	2		島田 桂子	<隔年>本年度開講	言語文化研究分野を選択する者は、いずれかの研究4単位及び演習4単位を修得すること
		イギリス言語文化論研究B	2		島田 桂子	<隔年>本年度開講せず	
	9203	イギリス言語文化論演習A		2	島田 桂子	<隔年>本年度開講	
		イギリス言語文化論演習B		2	島田 桂子	<隔年>本年度開講せず	
	9205	イギリス文学論研究A	2		瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講	
		イギリス文学論研究B	2		瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講せず	
	9207	イギリス文学論演習A		2	瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講	
		イギリス文学論演習B		2	瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講せず	
	9209	アメリカ言語文化論研究A	2		伊藤 章	<隔年>本年度開講	
		アメリカ言語文化論研究B	2		伊藤 章	<隔年>本年度開講せず	
	9211	アメリカ言語文化論演習A		2	伊藤 章	<隔年>本年度開講	
		アメリカ言語文化論演習B		2	伊藤 章	<隔年>本年度開講せず	
	9213	アメリカ文学論研究A	2		高橋 克依	<隔年>本年度開講	
		アメリカ文学論研究B	2		高橋 克依	<隔年>本年度開講せず	
9215	アメリカ文学論演習A		2	高橋 克依	<隔年>本年度開講		
	アメリカ文学論演習B		2	高橋 克依	<隔年>本年度開講せず		
英語教育・コミュニケーション研究	9217	英米文学論特殊研究A	2		瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講	言語文化研究分野を選択する者は、2単位を修得すること
		英米文学論特殊研究B	2		瀬名波栄潤	<隔年>本年度開講せず	
	9219	言語文化教育論特殊研究A		2	村井 泰廣	<隔年>本年度開講	
		言語文化教育論特殊研究B		2	村井 泰廣	<隔年>本年度開講せず	
	9221	キリスト教文化論特殊研究A	2		山我 哲雄	<隔年>本年度開講	
		キリスト教文化論特殊研究B	2		山我 哲雄	<隔年>本年度開講せず	
9223	言語文化比較論特殊研究A	2		井上 健	<隔年>本年度開講(夏季集中)	英語教育・コミュニケーション研究分野を選択する者は、2単位を修得すること	
	言語文化比較論特殊研究B	2		井上 健	<隔年>本年度開講せず(夏季集中)		
	言語文化論特殊研究	2		イアン・トゥイディ	<隔年>本年度開講せず(夏季集中)		
	コミュニケーション原論研究	2		ロバート・トムソン	本年度開講せず		
9232	コミュニケーション原論演習		2	中地 美枝			
9233	異文化コミュニケーション論研究	2		長谷川典子			
9234	異文化コミュニケーション論演習		2	長谷川典子			
	言語教育学研究	2		柳町 智治	本年度開講せず	英語教育・コミュニケーション研究分野を選択する者は、2単位を修得すること	
	言語教育学演習		2	柳町 智治	本年度開講せず		
9237	社会言語学研究	2		高野 照司			
9238	社会言語学演習		2	高野 照司			
	応用言語学特殊研究	2		柳町 智治	本年度開講せず		
	英語史特殊研究	2		園田 勝英	<隔年>本年度開講せず		
9241	理論言語学	2		奥 聡	<隔年>本年度開講	英語教育・コミュニケーション研究分野を選択する者は、2単位を修得すること	
	言語人類学	2		片岡 邦好	<隔年>本年度開講せず(夏季集中)		
9243	語用論	2		J.M. ロナルド	<隔年>本年度開講(夏季集中)		
	英語教育方法論	2		田中 洋也	<隔年>本年度開講せず		
9245	英語教育評価論		2	齋藤 英敏	<隔年>本年度開講(冬季集中)		
9246	コミュニケーション論特殊研究	2		ロバート・トムソン	<隔年>本年度開講		
人間関係論研究		教育思想論特殊研究A	2		鈴木 剛	本年度開講せず	いずれか4単位を修得すること
		教育思想論特殊研究B	2		鈴木 剛	本年度開講せず	
	9253	教育社会心理学研究A	2		田辺 毅彦	<隔年>本年度開講	
		教育社会心理学研究B	2		田辺 毅彦	<隔年>本年度開講せず	
	9255	身体心理学特殊研究A		2	蓑内 豊	<隔年>本年度開講	
		身体心理学特殊研究B		2	蓑内 豊	<隔年>本年度開講せず	
9257	心理学特殊研究A	2		石川 悟	<隔年>本年度開講	必修	
	心理学特殊研究B	2		石川 悟	<隔年>本年度開講せず		
9262	研 究 指 導				伊藤 章		本年度開講せず
9263					長谷川典子		
9264					高橋 克依		
					高野 照司		
9266					柳町 智治	本年度開講せず	
9267					中地 美枝		
9268				島田 桂子			
				ロバート・トムソン			
9272	論 文 指 導				伊藤 章	本年度開講せず	いずれか3単位を修得すること
9273					長谷川典子		
9274					高橋 克依		
					高野 照司		
9276					柳町 智治	本年度開講せず	
9277					中地 美枝		
9278				島田 桂子			
				ロバート・トムソン			
9282	特 定 課 題 研 究 指 導				伊藤 章	本年度開講せず	
9283					長谷川典子		
9284					高橋 克依		
					高野 照司		
9286					柳町 智治	本年度開講せず	
9287					中地 美枝		
9288				島田 桂子			
				ロバート・トムソン			

〔履修方法〕

言語文化コミュニケーション専攻(修士課程)の修了の認定を受けるために修得しなければならない30単位のうち、各研究分野を選択する者毎に備考欄に定めるところに従い20単位を修得するものとし、言語文化研究分野を選択する者は、英語教育・コミュニケーション研究分野の開講科目の中から4単位を、英語教育・コミュニケーション研究分野を選択する者は、言語文化研究分野の開講科目の中から4単位を修得することとし、その余の6単位は履修していない言語文化研究分野、英語教育・コミュニケーション研究分野、人間関係論分野の開講科目から履修することにより修得すること。

〔修了要件〕

大学院修士課程に2年以上在学し、計30単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査又は特定課題研究の成果の審査及び試験に合格すること。